参考

平成27年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
博多校区大浜（おおはま）社会福祉協議会 （福岡市）	ふれあい訪問員や生活支援ボランティアグループとの協働による重層的な見守り・生活支援	・　１人の見守り対象者を、少なくとも１人のふれあい訪問員が担当 ・　ふれあい訪問員では対応が難しい案件（庭木の伐採や電球交換、エアコン・換気扇清掃等の日常生活支援）については、校区の生活支援ボランティアグループが依頼を受け、校区ボランティアや町内ボランティアが実施 ・　交流事業として高齢者食事会や配食を実施 ・　緊急時対応として「見守り対象者カード」や「見守りマップ」を作成 ・　長年にわたる多彩で重層的な取組みにより、ボランティアや自主防災組織等、多くの住民が参加する仕組みを構築
鳥飼（とりかい）ふれあいの会 （久留米市）	対象に応じた頻度の高い見守り活動を行うとともに、訪問記録の作成などで情報を共有し、対応	・　週１回程度見守り対象者を訪問しており、超高齢の対象者には、体調等に合わせ訪問頻度を増加 ・　訪問の活動記録を作成し、民生委員・地域包括支援センター等と連携して、高齢者の孤立防止、自立支援に活用 ・　見守り活動や認知症介護などをテーマとした「ふれあいの会研修会」を、専門家を招いて定期的に開催 ・　民生委員等と協力して校区の会食会や配食活動を実施
桜町（さくらまち）公民館 （田川市）	福祉マップの作成や「幸せの黄色いハンカチ」等による安否確認	・　福祉マップの作成による見守り対象者の把握 ・　民生委員、連絡委員、隣組長、近隣住民等により、月2～3回程度の訪問を実施 ・　「幸せの黄色いハンカチ」（高齢者に黄色い布を配布して、家のポストや玄関前にかざすことで“今日も元気です”のシグナルを送り、民生委員や近隣住民に安否が伝わる工夫）を実施 ・　高齢者を対象とした健康体操を月２回実施 ・　平成26年10月の台風接近時に、町内のひとり暮らし高齢者を民生委員や公民館長等が自主的に桜町公民館へ避難させ、布団や毛布等を提供
徳力（とくりき）団地自治会 （北九州市）	自治会を中心とした密な連絡体制を構築し、見守り訪問活動とともに見守り対象者参加型の安否確認活動を定期的に実施	・　自治会役員が常駐する団地内事務所において、棟委員（全72棟）との会議を毎月開催。福祉協力員、民生委員も参加し、見守り対象者の状況を把握して対応 ・　自治会の会報を、75歳以上の入居者に棟委員が直接届ける「見守り訪問」を毎月実施 ・　「北九州体操」、「ふれあいバザー」「ふれあい喫茶」「おり紙教室」「食事会」、「映写会」など、対象者参加型の安否確認活動を定期的に実施
九州電力株式会社　北九州支社 （北九州市）	好事例の情報共有や社内表彰制度等、見守り活動への従業員の意識向上の取組み	・　電気事業として地域に関わる日常業務（電気の検針、集金等お客さま訪問活動）において、ひとり暮らし高齢者宅等の訪問時に異変を察知した場合、各区役所の連絡窓口に通報する活動を市内全域で展開 ・　社内の実績、事例を社内ネットワーク（電子掲示板）により情報共有 ・　好事例に対する社内表彰制度を整備 ・　見守り活動への協力の促進拡大のため、グループ会社に対して「北九州市いのちをつなぐネットワーク推進会議」への参加を呼びかけ

参考

平成28年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
八幡東区老人クラブ連合会（北九州市）	長年に渡って密度の高い見守り活動を行うとともに、当該団体が中心となり、八幡東区自治総連合会、八幡東警察署、八幡東消防署の四者による同行訪問を実施	・20年以上に渡ってひとり暮らし高齢者宅へ月4～5回訪問 ・ひとり暮らし高齢者の孤独感解消と安否確認を兼ねた外出機会の創出のため、健康づくり講話やまち美化活動などを積極的に開催 ・八幡東区自治総連合会、八幡東警察署とともに「八幡東交通安全高齢者宅訪問隊」を結成し、交通安全や防犯、詐欺被害防止などの注意喚起も行いながら全組織の担当者が毎月訪問、併せて防火安全運動も実施 ・福岡県交通安全県民大会シルバーセーフティコンクール特別賞受賞（H28.11）
東若久校区ふれあいネットワーク活動運営協議会（福岡市）	自治会長を中心とした民生委員・社協・シニアクラブの4団体による活動のほか、隣組長や近隣住民等による重層的な見守り体制を構築	・自治会ごとに見守り活動の班を構成。自治会長を中心に、民生委員、社協、シニアクラブの4団体が横断的に協力する体制で、全14自治会で見守りを実施。さらに、多くの自治会で隣組長や近隣住民等による家の外からの見守りも行い、重層的な見守り体制を構築 ・校区全体で毎年研修会とワークショップを開催し、団体同士や活動者同士の認識を共有 ・校区独自に「活動マニュアル」を作成し、研修会において活動の基本を確認・共有。幅広い世代に研修参加を呼びかけ、今年度は新たに福祉施設や事業所も参加 ・平成25年度には要援護者や見守り対象者への安否確認訓練を全自治会で実施 ・今年度より、校区における高齢者を対象とした生活支援・介護予防の推進も当該協議会で進めていくこととなり、介護予防教室等も実施予定
東国分ふれあいこだま会（久留米市）	長年に渡って密度の高い見守りを実施するとともに、料理教室の開催など、地域に根付いた活動によるひとり暮らし高齢者の孤立防止を推進	・長年に渡り、月4回と高い頻度で独居高齢者や高齢者夫婦、認知症高齢者への声かけ訪問を定期的に実施。また、対象者の誕生日には花を持って訪問 ・毎月の班長会で訪問活動時の課題等について情報共有を行うとともに、学習会を実施 ・1人暮らし高齢者を対象とした自立支援教室として、料理教室を開催したり、校区のバザーで出店したりするなど、地域に根付いた活動を実施 ・最近では子ども食堂の食事作りにも協力しており、近くの介護施設や地域の高齢者、お母さん方にも声をかけ、活動の幅を拡大
美吉野区福祉会（水巻町）	見守り活動のポイントを共有し、地区の関係団体の協力により、日ごろの生活の中に見守りを位置づけて取組みを実施	・対象高齢者緊急連絡先名簿を作成し、役員全員に配付し、情報を共有 ・「昼と夜、2回に分けてパトロールを行い、その際独居高齢者の近所の方たちに最近異変はないか聞き取りを行う」ことを会員全員で共有。会員は近所の対象者を担当し、日ごろの生活の中に見守りを位置づけ ・年に2回見守り対象者に花を贈呈し、花の世話を通した交流を実施 ・「ふれあい生き生きサロン活動」として、ふれあい体操や昼食会、自主ウォーキンググループ活動等を行い、高齢者の孤立化を防止

参考

団体名	特 徴	活動内容
エフコープ生活協同組合（篠栗町）	配達担当者等に対して十分な研修を行った上で、日常業務を通じて全県的に見守りを実施。市町村とも緊密に連携。	・日常業務（食料品や雑貨などの配達、夕食宅配等の訪問活動）において、訪問時に異変を察知した場合や各種相談を受けた場合に、各市町村の連絡窓口に通報・相談する活動を県内全域で展開 ・配達担当者をはじめ、職員に対し、見守り活動、認知症サポーター養成、特殊詐欺事例、AED 操作等に係る各種研修を実施 ・見守り等に関し、他の模範となる行動を行った職員に対しては、事業所長会議にて表彰状等を授与 ・平成 28 年 5 月には、県内市町村の見守り担当職員と生協職員による「地域見守り活動に関する研修・交流会」を開催 ・県との「見守りネットふくおか」協定締結（平成 25 年 12 月）以降、救命実績 15 件、特殊詐欺の未然防止実績 2 件

参考

平成29年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
高取校区社会福祉協議会（福岡市）	高齢者のお困り事に対応する「シルバー110番」を地域の社会資源も活用しながら実施	・月３回の見守り訪問活動や高齢者の集いの場（以下「サロン」という。）の開催ではカバーされない手助けを必要とする高齢者に対応するため、平成28年５月から、見守り活動員宅や地域の社会資源（商店、介護保険事業所、薬局等）の協力を得て、「シルバー110番」（子ども110番の家の高齢者版）を開始した。 ・シルバー110番のプレートを設置した見守り活動員宅や協力施設では、地域の高齢者のお困り事（例：道に迷った。気分が悪くなった）に、マニュアルに基づいて対応している。 ・シルバー110番を多世代に向けて周知するため、29年11月、児童・保護者や老人クラブなどを対象としたウォークラリー大会「捜そう、シルバー110番」を開催した。 ・シルバー110番の協力施設も、従来からの見守り活動の定例会議に参加するようになり、情報共有や相互の連携が図られている。
高良内校区ふれあい明星の会（久留米市）	長年に渡る見守り訪問活動やサロンの開催と、活動を通じて把握した困難事例への組織的な対応	・15班編成により月１回の訪問及び年６回の配食活動を行っている。 ・高齢者の交流のため、サロンを開催し（H28年度実績14回）、各種レクリエーション、会食、防犯学習会、健康講話、遠足など、参加者を飽きさせないようプログラム内容を工夫している。 ・月１回班長定例会を開催し、訪問活動時に気づいた点や心配な点を報告し会全体で情報共有するとともに、困難事例について協議して（H28年度の協議実績数38件）組織的に対応方針を決めており、個人や班に対応を任せきりにすることがないようにしている。 ・訪問活動等によって判明した個別の問題について、地域包括支援センターなどの機関に情報提供し、見守り以上の支援が必要と判断された場合は連携して対応している。
四三嶋区（筑前町）	見守り訪問と生活支援サービスの密接な連携とサロンの毎週開催による閉じこもりの防止	・月３回の見守り訪問と、家事手伝い、資源ゴミの運搬、病院の付き添い等の生活支援サービスを連携して行っている ・高齢者の閉じこもり防止や交流促進のため、週１回サロンを開催している。 ・気軽な参加を促すため出入り自由とし、参加者が話し合って、ゲームや体操、歌唱等のやりたいことを決めることができるサロンとして運営している。 ・地域全体、特に若い世代への見守り意識啓発のため、平成28年度から地区の中学校と連携し、中学生ボランティアの受け入れを始め、資源ゴミの運搬等を手伝ってもらっている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
愛のネットワーク推進会（吉富町）	長年に渡る緊急通報システム利用者への通報があった際の援助活動、見守り訪問及び生活上の相談への対応	・「一人の不幸も見逃さないネットワーク・暖かく支えあう地域社会づくり」を目的として会を設置して以来、長年に渡って緊急通報システム利用者に対する通報があった際の援助活動のほか、月１回の自宅訪問による声かけ、見守り、安否確認を実施し、生活上の相談にも対応している。 ・定期的に地区分会長、副分会長会議を開催し、困難事例を含めた事例報告や対象者の生活状況などについて意見交換を行い、地域の課題を共有して、見守りの必要性について理解を深めている。
北福朝日会（北九州市）	定期的な見守り活動への意識付けと新聞配達業務を通じた見守りの実施	・各配達員は、郵便受けの状況や集金時の会話等において異変がないかを確認している。 ・店長定例会議において、顧客か否かに限らず、困っている様子や具合が悪そうな高齢者を見かけたら積極的に声をかけるよう定期的に周知し、各店舗において、店長から配達員に伝達している。 ・北九州市の「いのちをつなぐネットワーク」への参加、福岡県との「見守りネットふくおか」協定締結により行政と連携し、異変に気付いた配達員が北九州市に連絡したことで、救命につながった実績がある。 ・販売店店長を中心に認知症サポーター養成講座を積極的に受講している（平成29年２月現在148人受講）。

参考

平成30年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
笹丘校区社会福祉協議会（福岡市	地域住民と福祉・医療等の専門職が連携しながら地域福祉活動を展開、地域に根付いた多彩な活動による高齢者の孤立防止	・定例の見守り訪問のほか、ふれあいネットワーク回覧板（高齢者福祉情報掲載）及び一般の回覧板を回す際にも見守りを行うことを各町内会に徹底しており、住民同士の「顔が見える関係づくり」につながっている。 ・２ヶ月に１回、校区の福祉関係団体、行政、区社会福祉協議会、圏域ケアマネジャー会（介護事業所・医療機関）等が参加する「校区ネットワーク包括会議」を開催し、見守り活動に関する情報共有や課題解決に向けた協議を行っている。 ・昼食の提供も行うふれあいカフェ（週１回）、こども食堂・世代間交流を兼ねたふれあい食堂（月２回）、犬の散歩時に高齢者の安否確認も行うわんわんパトロールなどを行っている。 ・昨年度から生活支援ボランティアグループの活動、今年度からは高齢者買い物支援バスの運行を開始するなど、積極的に新たな活動に取り組んでいる。
周船寺校区社会福祉協議会（福岡市）	隣組長及び地域の民間企業や福祉施設等と連携した重層的な見守り体制の構築	・民生委員を中心とした定例の見守り訪問に加え、各自治会を通して隣組長にもさりげない外からの見守りをお願いするなど、校区全体で組織的な見守りを行っている。 ・「周船寺校区ふれあいネットワーク活動個人情報の手引き」を作成し、活動員間での個人情報の取扱いに関する認識を統一している。 ・校区防災推進委員会と共催で、対象者の安否確認と避難誘導を行う「要支援者避難訓練」を行っており、緊急時の連携体制が整えられている。 ・地域の民間企業や福祉施設等と連携し、業務中に住民の異変に気付いた際には地域活動者に通報を行う仕組みを構築している。
三苫校区社会福祉協議会（福岡市）	見守り訪問と生活支援サービスの密接な連携と、ボランティア養成講座の開講による後継者の育成	・生活支援ボランティアと連携し、見守りと生活支援サービスを兼ねた取組をしている。活動を通して、見守りが必要と思われる者及び生活支援の必要がある者相互の掘り起こしを行っている。 ・年３回の班会議で、見守り対象者とボランティアを地図に示した「見守りマップ」を確認しながら対象者の様子など情報交換し、班会議実施後は、校区会議を行い、班会議の報告や地域の課題の検討など行っている。 ・ボランティア養成講座を昨年度から行い、２年間で約20名が新たに地域活動（うち、５名が見守り活動員として活動）を始めている。 ・集いの場づくりとしてカフェを２箇所（月１回）、サロンを１箇所（月１回）、料理伝承会を通じた世代間交流事業などを実施している。

参考

団体名	特 徴	活動内容
ふれあい合川の会（久留米市）	長年に渡る見守り訪問活動やサロンの開催と、ボランティアスクールを通じた会員の資質向上	・月２回程度の訪問及び年８回の会食会を行っている。 ・見守り対象者の検討及び訪問については、民生委員と連携し、実施している。 ・高齢者の交流のため、各自治会でいきいきサロン(年３回以上)を開催し、健康体操、講話や脳トレなど、参加者を飽きさせないようプログラム内容を工夫している。 ・月１回、班長会（定例会）を実施し、訪問活動時の気づきや相談ごとを共有化し、対応について協議を行っている。 ・年２回、ボランティアスクールを実施し、訪問活動における基本姿勢、気づきのポイントなどの訪問の際に役に立つ知識を学ぶ場を設けることで、会員の資質向上に努めている。
頃末南区福祉会（水巻町）	会員の負担軽減に配慮した訪問体制及びサロン活動等を通じた高齢者の閉じこもりの防止	・町から提供される高齢者台帳を、会において見守りの必要性に応じて分類し、見守り対象者を決定している。また、困難事例が発生した際は、会の構成員でもある民生委員が引き継いで対応するなど、個々の会員の負担が過重にならないよう工夫している。 ・会員全員による定例会議を月１回開催し、会員間で情報共有を行っている。 ・サロン活動として、高齢者のふれあい昼食会（年４回）、ふれあい体操（月２回）、施設見学会（年１回）、勉強会（年１回）を開催している。ふれあい体操後には、血圧測定や健康相談の他、参加者の親睦を深めるための茶話会も開くなど、高齢者の閉じこもり防止に寄与している。
桂川町民生児童委員協議会（桂川町）	配食サービスを兼ねた高頻度の訪問と「支え合いマップ」等を活用した見守り対象者の掘り起し	・月１回、社会福祉協議会の広報誌を一人暮らし高齢者等に配布して、安否確認を行っている。また、月３回、一人暮らし高齢者や高齢者夫婦、身体障がい者等に対し、お弁当を作り、家に配達をして安否確認を行っている。 ・「支え合いマップ」を作成し、ひとり暮らし高齢者や支援者といった地域住民のつながりを視覚化することで孤立している人を見つけ、随時更新のうえ支援を行っている。 ・月１回、定例会を開催し、会員間で地域の課題を共有している。 ・各行政区福祉委員や町社会福祉協議会等と連携し、活動を実施しており、各地区で福祉部が開催するお花見や七夕まつり、介護予防教室などに積極的に参加し、子どもや高齢者の話を聞き情報交換を行っている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
福岡読売防犯協力会（福岡市）	新聞配達業務を通じた見守り活動、独自表彰の実施による会員のモチベーション向上	・新聞配達員が配達時のポスト視認、集金時における会話など日常の業務のなかで、防犯・孤立死防止の観点から見守り活動を行っている。 ・異変を察知した際には、H25 に福岡市と締結した高齢者見守りに関する協定（「福岡見守るっ隊」）に基づき、「福岡市見守りダイヤル」へ通報している。 ・年１回、市開催の「福岡見守るっ隊」の連絡協議会に参加し、同協議会の内容を社内誌の「販売ニュース」に掲載し、全販売店に向け伝達している。 ・活動において人命救助等の特に優良な事例があった際には、月１回開催している地域毎の販売所所長会において表彰の場を設け、モチベーション向上や、見守りに取り組むことへの動機づけとしている。 ・「福岡市見守りダイヤル」の通報件数は協定事業者の中で最も多く、そのうち、H28 年度１件、H29 年度２件が人命救助につながるなど、優れた実績を挙げている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
壱岐南校区社会福祉協議会 ＬＣＩ（地域包括ケア壱岐南）会議"	行政、地域包括支援センター、介護事業所等を構成メンバーとしたLCI会議を開催し、校区全体の福祉活動を活発化。	・行政、地域包括支援センター、地域資源（介護・福祉事業所、医療機関、老人クラブ、地元商店街等）も構成メンバーに加えたＬＣＩ会議を偶数月に開催。 ・ＬＣＩ会議は緊急時連絡網として機能しているほか、認知症高齢者が不必要に買い物することを防いだり、行方不明となることを防ぐ支援体制構築へもつながった ・高齢者の日常の困りごと解決のため生活支援ボランティアグループ「てつだい隊」を結成、中学生も学校帰りにゴミだしボランティアとして活動するなど、地域全体の取組となっている。 ・介護施設を利用した地域カフェ「ふら～っとカフェ壱岐南」を月１回開催。ボランティアを含め毎回約200人が参加している。必要な人には送迎も手配し、食事の提供、物販、福祉・健康相談、美容ブースの設置など数々の催しも行い、子どもから高齢者まで多世代交流の場となっている。
草ヶ江校区社会福祉協議会	見守りマップ（年４回更新）を作成し、見守る側と見守られる側の明確化を図っている。	・見守りマップを作成し、見守る側と見守られる側の明確化を図っている。 ・災害時避難行動要支援者名簿を上記の見守りマップに落とし込んでいる。今年度から災害時個別支援計画の作成にも取り組んでいる。 ・校区内６か所で「ふれあいサロン」を開催している。マンション単位など狭い地域などでのサロン立ち上げに努め、身近な場所で開催することによって高齢者が通いやすいようにしている。 ・手作りお弁当を年３回、赤飯を年１回（年末）、79歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に配っている。
弥永校区社会福祉協議会	独自のオレンジプラン「弥永校区ほほえみオレンジプラン」を策定するなど、認知症高齢者に分厚い取組	・校区の介護事業所等で構成される「ほっとかれん隊」や地域包括支援センターと日頃から情報共有することで、認知症高齢者の行方不明を未然に防ぎ、万が一行方不明が発生した場合も協力して捜索できる体制を構築している。 ・地域カフェ「ほほえみカフェ」をスーパーマーケットで開催（月１回）しているほか、巡回カフェ（月１回）も開催し、住民同士のつながり、ふれあいのきっかけの場としている。 ・校区独自のオレンジプラン「弥永校区ほほえみオレンジプラン」を策定し、多くの人で認知症を見守り支え合う目標をたて、徘徊模擬訓練の実施などによって幅広い世代へ認知症への理解を呼び掛けている。
ふれあい御井の会	サロンや交流会を行うこと、高齢者の孤立や閉じこもりを防止	・全15自治区で見守り活動班を編成。民生委員と情報共有することによって発見された課題への対応がスムーズに行われるようにしている。 ・各班（15班）で集いの場「いきいきサロン」を開催し、高齢者の閉じこもりを防いでいる。 ・配食サービス（年７回）、季節ごとの交流会（もみじ狩り、ウォーキング大会、餅つき交流会、留学生との交流会など）を開催し、高齢者同士の交流を促進し孤立を防いでいる。

令和元年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

参考

団体名	特 徴	活動内容
壱岐南校区社会福祉協議会 ＬＣＩ（地域包括ケア壱岐南）会議 （福岡市）	行政、地域包括支援センター、介護事業所等を構成メンバーとしたLCI会議を開催し、校区全体の福祉活動を活発化。	・行政、地域包括支援センター、地域資源（介護・福祉事業所、医療機関、老人クラブ、地元商店街等）も構成メンバーに加えたＬＣＩ会議を偶数月に開催。 ・ＬＣＩ会議は緊急時連絡網として機能しているほか、認知症高齢者が不必要に買い物することを防いだり、行方不明となることを防ぐ支援体制構築へもつながった ・高齢者の日常の困りごと解決のため生活支援ボランティアグループ「てつだい隊」を結成、中学生も学校帰りにゴミだしボランティアとして活動するなど、地域全体の取組となっている。 ・介護施設を利用した地域カフェ「ふら～っとカフェ壱岐南」を月１回開催。ボランティアを含め毎回約200人が参加している。必要な人には送迎も手配し、食事の提供、物販、福祉・健康相談、美容ブースの設置など数々の催しも行い、子どもから高齢者まで多世代交流の場となっている。
草ヶ江校区社会福祉協議会 （福岡市）	見守りマップ（年４回更新）を作成し、見守る側と見守られる側の明確化を図っている。	・見守りマップを作成し、見守る側と見守られる側の明確化を図っている。 ・災害時避難行動要支援者名簿を上記の見守りマップに落とし込んでいる。今年度から災害時個別支援計画の作成にも取り組んでいる。 ・校区内６か所で「ふれあいサロン」を開催している。マンション単位など狭い地域などでのサロン立ち上げに努め、身近な場所で開催することによって高齢者が通いやすいようにしている。 ・手作りお弁当を年３回、赤飯を年１回（年末）、79歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に配っている。
弥永校区社会福祉協議会 （福岡市）	独自のオレンジプラン「弥永校区ほほえみオレンジプラン」を策定するなど、認知症高齢者に分厚い取組	・校区の介護事業所等で構成される「ほっとかれん隊」や地域包括支援センターと日頃から情報共有することで、認知症高齢者の行方不明を未然に防ぎ、万が一行方不明が発生した場合も協力して捜索できる体制を構築している。 ・地域カフェ「ほほえみカフェ」をスーパーマーケットで開催（月１回）しているほか、巡回カフェ（月１回）も開催し、住民同士のつながり、ふれあいのきっかけの場としている。 ・校区独自のオレンジプラン「弥永校区ほほえみオレンジプラン」を策定し、多くの人で認知症を見守り支え合う目標をたて、徘徊模擬訓練の実施などによって幅広い世代へ認知症への理解を呼び掛けている。
ふれあい御井の会 （久留米市）	サロンや交流会を行うこと、高齢者の孤立や閉じこもりを防止	・全15自治区で見守り活動班を編成。民生委員と情報共有することによって発見された課題への対応がスムーズに行われるようにしている。 ・各班（15班）で集いの場「いきいきサロン」を開催し、高齢者の閉じこもりを防いでいる。 ・配食サービス（年７回）、季節ごとの交流会（もみじ狩り、ウォーキング大会、餅つき交流会、留学生との交流会など）を開催し、高齢者同士の交流を促進し孤立を防いでいる。

参考

団体名	特 徴	活動内容
猪熊(いのくま)福祉会ひまわり （水巻町）	集いの場の開催などによる、閉じこもり防止。	・ひまわり通信を作成して見守り対象者宅に配付（年６回）し、高齢者向けの健康情報などを届けている。 ・昼食会（年２回）、誕生日会、秋祭りなど集いの場を開催し、講話、カラオケ、ビンゴゲームなど内容を工夫することで出席率を上げ、引きこもりを防いでいる。秋祭りでは食品販売を行い、その収益を見守り活動費に充てる。 ・見守り活動員の多くが町のボランティア養成講座を受講し、有償ボランティアとしてゴミだしの手伝い、窓ふき、草取りなど家事援助においても活動している。
団らん処 和菜屋 （北九州市）	ケアマネジャーや作業療法士等の資格を持った従業員が、来所する高齢者の健康状態の確認、助言等	・店主や従業員は、作業療法士、ケアマネジャー、女子栄養大学食生活指導士１級の資格を持ち、来店する高齢者の健康状態の確認（店舗で血圧と体重を測定し記録）と助言、介護に関する相談対応などをしながら見守りをしている。 ・店舗はＵＲ金田団地内にあり、団地内やその周辺で買い物弱者となっている高齢者宅に惣菜の宅配を行い、見守りと安否確認を行っている。 ・団地の高齢者相談担当者や民生委員と連携しながら見守りと安否確認を行っている。また、スタッフの中には、市社協の福祉協力員もいるため、地域全体の見守り活動にも繋がっている。 ・店内にイートインスペースを設け、高齢者の集いの場と会話の機会を提供している。 ・民生委員や団地内の商店、町内会や子ども会と連携協力し、高齢者も気軽に参加できる地域イベントを開催している。今年度は「秋の防災まつり」を開催し、消防訓練以外の催しとして、ステージイベント、豚汁ふるまい、餅つき、無料健康介護相談、焼き立てピザ販売なども行った。

参考

令和２年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
東花畑校区ふれあいネット“５愛”推進会（福岡市）	災害時の対応を盛り込んだ「活動マニュアル」の作成や、「安否確認カード」による災害時の安否確認漏れの防止など、平常時だけでなく災害時の見守り体制を整備	・避難行動要支援者名簿をマップに落とし込み、町内ごとに更新しているほか、災害時に安否確認が済んだ家は玄関に「安否確認カード」を貼り付け、安否の確認漏れがないようにするなど、平常時だけでなく、災害時の見守り体制を整備し、安心な体制を整えている。 ・平常時の具体的な見守り方法をはじめ「避難行動要支援者」の名簿、支援計画、マップの作成方法や、緊急時の対応などをとりまとめた「活動マニュアル」を作成し、活動員が交替した際にも滞りなく活動が行えている。 ・日頃からの見守りにより、一時行方不明になっていた対象者の発見・保護や、玄関先で倒れていた対象者の早期発見などの大きな成果につながっている。
板付校区社会福祉協議会（福岡市）	定例会による情報共有や研修会による活動員の資質向上により、活動員がひとりで課題を抱え込まない体制を構築	・施設見学や福祉用具等について学ぶボランティア研修を年１回開催して福祉・介護分野の知識を高めているほか、校区内のコンビニの店員を迎えて、実際に起きた認知症高齢者への対応について、事例を交えて講話してもらったこともある。 ・定例会や研修会の実施による情報の共有や、介護事業所との連携により、活動員が１人で課題を抱え込まないように工夫している。 ・毎年、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の基本的な知識や認知症高齢者の徘徊の発生を想定した声掛け方法などを研修している。 ・H29 から、行方不明の恐れがある認知症高齢者の情報を事前に登録することで、行方不明が発生した時に校区の捜査協力者に連絡して捜索活動を行う「ちょっと一声見守り隊」の仕組みを整備。
ふれあい宮ノ陣（久留米市）	見守り訪問活動の班全てに民生委員・児童委員が加わり、各自治会を単位としたサロンの開催など、きめ細やかな見守り活動を実施	・長年にわたり月に７回という高い頻度で高齢者単身世帯や高齢者のみの世帯を訪問し、見守り活動を行っている。 ・見守り訪問活動で発見された課題を班内の民生委員・児童委員につなげ、見守り対象者の情報を共有しており、課題解決が速やかに行われるようにしている。 ・ボランティアスクールや研修会を開催し、認知症の方への声掛けの具体的な方法をレクチャーするなど、活動員の資質向上や新たな担い手の養成、育成等に取り組んでいる。 ・見守り活動のほか、年５回の配食サービスに加えて「いきいきサロン」を年４回以上開催し、カラオケや会食、勉強会などを行っている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
東福間第４区福祉会（福津市）	手作りカレンダーの配付をきっかけとした見守り対象者の健康状況把握により、民生委員や地域包括支援センター等と連携した問題解決を実現	・推進員ごとに担当世帯を決め、同じ人が月４回定期的に訪問しているほか、災害時の訪問担当も決めるなど、対象者に寄り添った見守りを行っている。 ・月に１回、地域のイベント情報などを掲載した手作りのカレンダーを配付し、その際に高齢者一人一人の健康状況を把握し、記録している。 ・異変を察知した場合には、必要に応じて民生委員や自治会長、市や地域包括支援センターなどと連携して問題解決を図っている。 ・生活の中のちょっとした相談（電球の交換、ペットの死亡など）を受け付ける「暮らしの相談」や、活動員が毎日交替で見回る「365 日の散歩道」を実施するなど、地域に密着した見守り活動を行っている。
鯉口分譲区福祉「笑学」ネット（水巻町）	行事の案内などを掲載した会報を活用した安否確認や困りごとの把握により、対象者の状況に応じた見守り活動を実施	・高齢者がいない世帯も含めた全ての世帯を見守りの対象としており、その中でも 70 歳以上の単身者や軽度の障がい者など“気になる人”のマップを数年前に作成し、年１回の運営委員会で共有している。 ・月に一度発行する「笑学ネットワークだより」に次回活動への参加の可否を返信したり「困りごと」を記入できる半券を付けており、その半券の返信の有無で安否を確認したり、困りごとがある世帯を訪問するなど、訪問のきっかけとしている。 ・毎年交替する副組長が見守りに従事することで順繰りに多くの人が携わるため、後継者不足は起きにくくなっている。

参考

令和３年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
壱岐東校区社会福祉協議会（福岡市）	棟長を中心にした見守り活動の実施や、見守りマップの作成により見守り体制を整備し、コロナ禍においても継続して活動を実施	・高齢者に加えて障がい者のいる世帯や子育て中の世帯も見守りの対象としている。 ・公営住宅のみの校区であり、棟ごとに棟長を中心にした見守り活動を実施している。また、棟ごとに見守り推進員を配置して、訪問や声掛けをしている。 ・高齢者や避難行動要支援者等を記入した見守りマップを棟ごとにデータで作成し、随時更新・情報共有している。 ・毎月の清掃活動時に、高齢者等も全員顔だけは出してもらい、状況を確認し、近所の方との交流を絶やさないようにしている。 ・コロナ禍においても、見守り対象者に暑中見舞いや年賀状を出し、何かあれば民生委員や棟長に相談するよう呼び掛けている。
東箱崎校区社会福祉協議会（福岡市）	ひとり暮らしの高齢者に加えて外国人も対象とした見守り活動を実施し、コロナ禍でも安否確認を実施するとともに、異文化・多世代の交流イベントを開催	・ひとり暮らしの高齢者に加えて外国人も見守り対象者としている。自治会の規約を外国語版で作成・配布しており、今後は外国語表記の不在者カードを作成し、長期休暇など留守の際は管理人に渡してもらい、外国人入居者の安否確認として活用していく予定。 ・民生委員や校区社協、老人クラブなどのメンバーによる見守り会議を月１回開催し、災害時の避難支援体制強化について取り組みを進めている。 ・校区において認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の基本的な知識や認知症の方への接し方などを研修し、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。 ・コロナ禍においても、暑中見舞いや年賀状を往復はがきで送り、体調や日頃の様子などについて返信してもらうことで安否確認を実施している。 ・コロナ禍でも外国人や子ども、高齢者の交流の機会とするため、町内の空地に畑を作り、じゃがいもを植えて収穫するイベントを開催するなど、異文化・多世代の交流を図っている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
小森野校区ふれあいの会（久留米市）	見守り訪問活動の班に民生委員・児童委員が加わり、活動で発見された課題を速やかに解決	・長年にわたり高齢者単身世帯や高齢者のみの世帯を対象に、ボランティアによる見守りの訪問活動、配食サービス、各自治会を単位としたいきいきサロンの開催など、きめ細やかな見守り活動を行っている。 ・見守り訪問活動で発見された課題を班内の民生委員・児童委員につなげるとともに見守り対象者の情報を共有するなど、課題解決が速やかに行われるようにしている。 ・ボランティアスクールや研修会をそれぞれ年２回開催し、見守り訪問活動の基本等をレクチャーするなど、活動員の資質向上や新たな担い手の養成、育成等に尽力している。 ・コロナ禍前は、月１回程度の自宅訪問を基本としていたが、コロナ禍では、月１回程度の自宅訪問を継続しつつ、電話での安否確認を、さらに月１～２回程度実施している。
吉田三区　福祉会　華の輪（水巻町）	訪問による安否確認や、行事の案内等を掲載した会報を回覧することによりきめ細かな見守り活動を実施	・独自に65歳以上で独居の方や、夫婦とも身体の調子が良くない方等の見守りのリストを、介護事業所等から情報を貰い作成し、見守り活動に役立てている。 ・行事の案内等を掲載した会報「華の輪通信」を回覧することにより、コロナ禍においても接触することなく活動を実施している。一般家庭にも回覧され、高齢者世帯以外にも関心を持ってもらえるようになっている。 ・コロナ禍においても月に１回は訪問を行っており、インターホン越しや距離を取って安否確認等を行っている。 ・訪問時に対象者が倒れていたことが４、５回あり、民生委員に報告を行ったこともある。 ・社会福祉協議会が行っている地域福祉ネットワーク講習会に毎年参加し、見守り・支え合い活動等の講習を受け、取組みの発表を行うこと等により活動員の資質向上に努めている。

参考

令和４年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
福重(ふくしげ)校区社会福祉協議会(福岡市西区)	訪問だけでなく電話での安否確認の実施や、見守りマップの作成により見守り体制を整備し、コロナ禍においても継続して活動を実施。	・活動員ごとに見守りの対象者を決め、月４回分担して訪問している。 ・見守り対象者と見守りを行うボランティアを地図上に落とし込み、避難行動要支援者名簿の登載者を追記して、各町内の高齢者等の状況が一目で分かる見守りマップを作成している。 ・見守り活動を行う中での課題や見守り対象者の情報について活動員同士で共有する班長会議や校区会議を開催している。 ・毎月の清掃活動時に声掛けを行い、対象者の把握に努め、虚弱な方や地域の方から見守りが必要であると心配の声が上がった方は特に注意して見守りを行っている。 ・校区社協の福祉活動と今後の具体的な取組の方針を集約した校区福祉のまちづくりプランを作成し、校区内の全世帯に配布することで活動の周知と住民全体の協力を呼び掛けている。
京町(きょうまち)町内会　たんぽぽ会(筑紫野市)	見守りのスケジュールを工夫し、訪問活動に留まらない見守りを実施。	・訪問時に町内で実施される高齢者サロンの参加を呼びかけ、対象者の地域とのつながりを促進している。 ・毎月定例会を開催し、対象者の情報更新を行っているほか、健康や介護予防に関する情報提供、訪問時に気を付けるポイントの確認を行っている。 ・緊急時や高齢者の異変を察知した場合には、公民館と連携し警察や消防、地域包括支援センター、民生委員・児童委員等適切な機関へ通報している。 ・コロナ禍で訪問ができないときは、対象者にチラシをポスティングすることで顔を合わせない見守りを実施した。 ・対象者の向こう３軒両隣の住民にも見守りの意識を持ってもらうため、「さりげない見守り」を促すリーフレットを配布した。
むさしヶ丘訪問見守り会(ひまわり会)（筑紫野市)	見守り訪問活動だけでなく、見守り対象者の半数以上が参加する交流会を開催し、引きこもりを防止。	・訪問活動中に、お揃いの上着を着て活動し、活動のアピールと対象者に安心感を与えられるように工夫している。 ・対象者が不在の場合は、「不在カード」をポスティングし、見守りにきたことを伝えるようにしている。 ・訪問活動後に行う報告会では、定期的に地域包括支援センターの職員が参加し情報共有をしているため、活動員が問題を抱え込むことを防止できている。 ・地域の福祉分野で活躍している団体（サロン関係者、立ち番で子どもを見守る団体、シニアクラブ、子ども会等）が集い、福祉連絡会を月１回開催し、お互いの活動を知ることで連携の基盤を整えている。 ・コロナ禍で直接会うことが憚られるときは、対象者に電話連絡を行い、顔を合わせない見守りを実施した。

参考

団体名	特 徴	活動内容
山川(やまかわ)ふれあいの会（久留米市）	訪問による安否確認のほか、配食サービスの実施、いきいきサロン等を開催しきめ細かな見守り活動を実施。	・長年にわたり、高齢者の単身世帯、高齢者のみの世帯を対象に見守り訪問活動を実施。 ・見守り活動で発見された課題や対象者の情報を民生委員・児童委員に共有し、見守りと課題解決がスムーズに行われるようにしている。 ・年 10 回程度班長会を開催し、見守り訪問活度の共有や配食サービス、サロン等の活動状況の共有、個別ケースの課題等の協議を行っている。 ・コロナ禍には、家の中まで入らず玄関口での見守りや声掛け、電話等で安否確認を実施し、感染症対策を行いながら見守りを継続。 ・認知症の方への声掛けや防災、見守りのポイント、地域の支え合い等様々なテーマでボランティアスクールや研修会を開催し、会員の資質向上や新たな担い手の養成、育成等に尽力している。
立(たて)屋敷(やしき)区福祉会（水巻町）	訪問時には、身分を証明するための会員証を持参に対象者に安心感を与える工夫をしているほか、ちょっとしたプレゼント(野菜など）を持参し、交流のきっかけとしている。	・訪問活動時に対象者が不在で、携帯電話もつながらない等本人と連絡が取れない場合は、緊急連絡先や本人と親しい方、高齢者支援センターに連絡し安全を確認できるようにしている。 ・訪問時に「立屋敷通信」を配布したり、高齢者向けの情報や季節ごとの注意喚起をしたりしている。 ・家族表や見守り調査票の更新や、健康状況を記録し、個人情報漏洩防止のため、見守り調査票は会長が管理している。 ・新会員募集の声掛けをし、活動が途切れないように後継者に育成に努めている。 ・コロナ禍のため、サロン活動は中止になることがあるが、通常は公民館でのふれあい体操終了後に、サロン活動として茶話会を実施し、住民同士の交流の場となっている。
西部ガス・カスタマーサービス（株）お客さま保安部　福岡西事業所（福岡市城南区）	毎月の業務で異変に気づいたら、社協や福岡市見守りダイヤル、救急安心センターで連絡し、異変時の早期発見に努めている。	・関係機関とのスムーズに連携が取れるように、日頃から社協以外に地域包括支援センターへの活動説明を行っている。 ・企業スタッフ全員が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深めている。 ・路上等で気になる高齢者を見かけた際に名前を確認し、自宅や施設まで送り届けたり、高齢夫婦の荷物運びをしたり等見守り以外の活動を行った実績がある。 ・地域住民全体のふれあいサロンに積極的に参加し、ガスコンロの安全装置についての説明等を行い、高齢者が安心して在宅生活を送れるよう啓発を行っている。 ・小学生の登校時の旗持ちを行い、高齢者だけでなく子どもたちの見守りも行っている。

参考

令和５年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
高尾福祉長寿会 （水巻町）	「黄色いハンカチ運動」等により、地域を巻き込んだ見守り活動を実施。	・ひとり暮らしの高齢者を対象に週に１回、黄色いハンカチが掲揚されているか確認を行い、確認の可否をチェック表に記入して状況を把握している。掲揚がない場合は、雨戸・郵便受け・照明・洗濯物等を現認して、異常の有無を確認し、民生委員に連絡している。 ・黄色いハンカチ運動実施要領書に準拠し、見守り分担表を元に見守り活動を実施している。 ・毎月１回、見守り定例会議を開催し、ハンカチ掲揚実績等を共有し、見守りの実績、問題点やその対策、活動員のレベル合わせ、今後の方向性の検討を行っている。 ・月に１度自治会報を配布し、行事予定や掲揚率をお知らせし、見守り活動の体制づくりを行っている。 ・サロン活動を毎月実施し、歌唱や講演、体操、DVD 鑑賞、昼食、ゲームでコミュニケーションをとっている。
脇山校区社会福祉協議会 （福岡市）	日常生活での見守り、声かけに加え、災害時の安否確認体制の整備、買物支援を実施。	・災害時の安否確認を円滑に行うため、訪問時に介護保険サービスの利用状況を確認している。（山間部にあり、多くの地区が土砂災害ハザードマップ内に位置しているため、災害対策を強化。災害時に、自宅にいるのか、介護保険サービスの利用で外出しているのか混乱を招く可能性があるため、見守り活動で訪問した際に、見守り対象者の介護保険サービスの利用状況を聞き取ることで、災害時等の安否確認体制を整えている。） ・社会福祉協議会・自治協議会・公民館が実施主体となり、近隣スーパーまで買い物支援バスの運行を開始している。 ・「よりあいどころ」として、脇山公民館で地域カフェを開催している。（近隣の介護事業所職員による健康体操や介護相談、熱中症やヒートショック等健康被害や詐欺被害防止の注意喚起も実施。） ・脇山公民館での地域カフェだけでなく、公民館と協働して、他地区へ出向く形での出張地域カフェを開始。
宮若市老人クラブ連合会 ふれあい訪問部会 （宮若市）	月 10 回以上を目標に、買物や出かけるついでに訪問するなど、意識的に訪問回数を増やしている。	・市内 29 クラブから選出された 2～3 名で、月 10 回以上を目標にひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦、昼間にひとりになる高齢者を定期的に訪問している。 ・話し相手や、日常の援助を行い、支援が必要な場合は各関係機関へつないでいる。 ・買い物や出かけるついでに訪問するなど、訪問回数を増やしており、定期的に会議を開催したり、常にアンテナを張り、普段と大きな変化はないか、本人や家の状況等を注意して観察したりすることを意識して見守りを行っている。 ・対象者との人間関係に重点をおき、訪問者自身の直接見た事実や近隣の協力的存在の第三者からの情報の入手に努め、２ヵ月に１回、連絡会を開催し、地区ごとの研修や情報交換を行っている。

参考

団体名	特 徴	活動内容
ふれあい南 （久留米市）	活動員に人権研修等、複数の研修を実施し、きめ細かな見守り活動を実施。	・月に１回以上、76 歳以上のひとり暮らし世帯、76 歳以上のみの世帯を中心に、見守り訪問活動（声かけ、安否確認、情報提供）を実施している。 ・コロナ禍でもつながりを絶やさないよう、インターホン越しや電話、メモ等での安否確認を継続し、孤立防止に努めた。 ・安否確認と同時に生活課題の有無を聴取し、関係機関につないでいる。 ・特に見守りが必要な対象者は、訪問回数を増やし、必要に応じて行政や関係機関へつないでいる。 ・２ヵ月に１回程度、班長会を開催し、関係機関（社協、包括、保健所等）や校区社協からの情報提供、各自治会での訪問活動・サロン活動等の活動状況や気づきを共有している。 ・校区社協と連携し、認知症やフレイル予防、詐欺被害の防止などに関する様々な学習を通して得た知識や情報を共有するとともに、対象者にも情報提供している。 ・見守り活動等を行うに当たり、対象者に寄り添った関わり方を大切に、より質の高い活動が行えるよう、毎年１回、人権研修を実施している。 ・校区社協が策定した校区福祉活動計画（校区の地域福祉活動計画）を活動員に配布し、活動の方向性を共有している。
第一環境、ケイ・イー・エス共同企業体 （北九州市）	市や警察と連携し、現地訪問時に声掛けや現地状態の確認を行っている。	・水道料金滞納整理員が水道情報を元に年一回現地訪問時に声かけ、現地状態の確認（水道メーターの確認、郵便物がたまっていないか等）を行う。在宅の場合は声かけを行い、不在時は水道の使用確認と現地状態に異常がないか確認し、市町村に報告を行っている。 ・水道検針員が検針時に高齢者を見守り、異常があれば声かけや市町村や警察署、救急隊へ連絡している。 ・福岡県警協力のニセ電話被害防止に向けた取組として、訪問の際に県警から依頼されたチラシを配ったり、住民等の様子に異常が見られた際には注意喚起を行ったりしている。 ・夏場に熱中症予防のために単身高齢者等への声掛けを行っており、そのための研修として訪問の際に気に掛けるポイント等を検針員に周知している。

参考

団体名	特 徴	活動内容
読売センター空港前（福岡市）	毎日の業務で地域を回る際、市や救急隊・警察への通報を行う異変の基準を設けるなど、連携体制を構築。	・読売防犯協力会の構成団体として、新聞配達員の配達・集金時等の訪問活動で、地域の防犯活動を核とした見守りを実施している。 ・福岡市見守りダイヤルや救急隊・警察への通報を行う異変の基準（新聞がたまっている、照明の点灯が続いている等）を設けており、判断がつきにくい場合は、複数人で確認するように各配達員に指導している。 ・所長が、日々の業務のなかで、配達スタッフや集金スタッフに対し、一人暮らしのお年寄りや子供の安全を見守るように声掛けをしている。 ・店内ポスターのほか、配達バイクにも防犯パトロール中のシート、ステッカーを貼って啓発に努め、従業員の防犯意識を高めている ・毎年、契約世帯に「防犯リーフレット」を新聞に折り込み、地域の防犯活動や見守り活動の推進啓発を図っている。

参考

令和６年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
吉富町ボランティア「太陽の会」 （吉富町）	ボランティアグループによる高齢者への「愛の弁当訪問」活動を実施	・吉富町ボランティアグループ「太陽の会」の弁当グループと訪問グループが年４回、「愛の弁当訪問」活動を３４年間継続して実施。 ・民生委員児童委員で構成される訪問グループは８０歳以上の高齢者世帯に対し事前訪問で弁当の要不要の確認と安否確認を行い、当日は手作りのお弁当を手渡ししている。 ・最近は社会福祉協議会と協力し、小学生や中学生が書いたメッセージをお弁当と一緒に配布することで、皆さんから喜びの声が上がっている。 ・役場の担当課と協力し、身近にいる地域の農家さんに旬の野菜を提供してもらうなど他機関や地域を巻き込んだ活動を実施。 ・施設訪問グループでは、高齢者施設を訪問し、舞踊やフラダンスの披露などを行い、入所者との交流等を実施
愛宕浜校区社会福祉協議会 （福岡市）	校区社協・自治協議会によるプログラム化した研修会等の取組による組織的かつ継続的な見守り活動を実施。（「ふれあいネットワーク活動」）	・高齢者の見守り活動（「ふれあいネットワーク活動」）を組織的かつ継続的に実施し、校区としての課題であった地域活動の担い手不足の解消とふれあいネットワーク班の全町での結成を目指し、校区社協・自治協議会でプログラム化した研修会の取り組みを進めている。 ・民生委員、各自治会より選出されている社協委員及び見守りボランティア等で協力しながら、月に１回のペースで各世帯への見守りを実施。 ・活動を円滑に進めるため、見守り活動の重要性や個人情報の取り扱いに関する留意点をまとめた「ふれあいネットワークファイル（見守りたい!!）」を作成し、令和５年度に各町に配布。 ・自治会長や民生委員を対象に、「高齢者の課題と地域活動について」、「災害時の自助と共助（個別避難計画書作成含）とふれあいネットワークについて」、等の研修会を実施。 ・継続した研修会を自治協議会と協働でパッケージ化したことで、地域に一体感が生まれ、民生委員や自治会長等との協力体制を構築。 ・見守り対象者へふれあいサロン、地域カフェの開催情報の声掛けを実施。

参考

令和６年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
香椎校区社会福祉協議会（福岡市）	認知症サポーター養成講座を開催し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを実施。	・対象世帯を町内会長、民生委員、福祉委員が中心となって、月１～３回訪問しながら見守りを実施。 ・校区内に住む８０歳以上の方々全員に一斉に贈答品を配布し、毎年特定時点での安否確認・情報確認を実施。 ・年２回ネットワーク研修会を開催し、見守りマップの作成・更新を実施。見守りマップは全町内で作成済みで、各町内での見守り会議等に役立てている。 ・校区内の福祉事業所ネットワーク「香椎・香住丘さくらネット」と近隣の九州産業大学、福岡女子大学、福岡工業大学と連携し、認知症声掛け訓練を実施。 ・校区において認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の基本的な知識や認知症の方への接し方について学習。地域ぐるみで認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに積極的に取り組み。 ・「ふれあいサロン香椎駅前」、「ふれあいサロン御島崎」の２カ所でふれあいサロン活動を開催し、閉じこもり予防や健康づくり活動等を実施。
春日市若葉台東地区自治会（春日市）	高齢者１人を複数体制で見守れる様マッピング、中学校のボランティア部が一緒に見守り活動を実施。	・高齢者１人を複数体制で見守れる様、見守りマップを作成。 ・定期的に、中学校のボランティア部と民生委員、推進委員メンバーが一緒に見守り活動を実施し、安否確認をしている。 ・訪問時のマニュアルを作成し、訪問後は振り返りを実施。 ・年１回は、登録カードの状況確認をし、登録者や支援者の状況を常に把握。 ・毎月、高齢者向けの健康体操教室「にこにこ体操」や「ふれあい・いきいきサロン」「カフェゆうゆう」を開催し、閉じこもりがちな方への参加を呼びかけ。 ・東中ボランティア部員の社会性、コミュニケーション力の向上は、活動に於いて特に顕著であり、高齢者の方からも喜びの声が上がっている。 ・救急救命につながった通報（令和６年度１件）。

参考

令和７年度　福岡県ひとり暮らし高齢者等見守り活動　表彰団体

団体名	特 徴	活動内容
東甲塚区福祉部会ボランティアの会（みやこ町）	生きがい集いの場としての「いきいきふれあいサロン」と、誰もひとりにさせないことを目標とした「独居年長者及び高齢者世帯への声掛け見守り訪問活動」を、地域性に合わせて両立した活動	・月４回、ひとり暮らし高齢者等の自宅へ訪問活動を実施し、定期的に見守り対象者の状況把握を行っている。特に気になる方については、年に２回訪問者による会議を開き、遠方の家族や福祉専門職へつなぐ等している。 ・訪問対象者のリストを作成し、訪問協力者が誰を見守ったかを記録し、メンバーと共有を図っている。また、２年ごとに交代する区長にも見守りメンバーに入ってもらうことで、区内の情報共有につなげている。 ・訪問活動を行う中で、少し支援が必要になってきた高齢者に対し、介護保険申請に至る前に、行政サービスや社会福祉協議会につなぎ、独居や高齢者のみ世帯でも住み慣れた自宅で生活できるようにつなげている。 ・サロン内で、行政や社協、地域包括支援センターによる講座を開き、新しい制度施策についても学んでいる。健康寿命を延ばす等高齢者が興味を持つ題目にすることで、我が事として考える機会としている。 ・町内居宅介護事業者の集まりであるケアマネ連絡会と協力し、要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らすことを目標に、介護保険制度とのつなぎも考えて活動している。
美和台校区社会福祉協議会（福岡市東区）	ふれあいネットワークとふれあいランチによる重層的な見守り活動を実施	・閉じこもりがちな高齢者宅へ週２回お弁当を宅配する「ふれあいランチ」を行っている。お弁当は手渡しで行うことで、安否確認及び利用者の変化にも早い段階で気づくことが可能となっている。また、お弁当の調理は、近隣校区の高齢者福祉施設が担当し、31 年間もの協力体制を築いており長年の連携体制を継続している。 ・町内会長や民生委員等で構成されたボランティアによる「ふれあいネットワーク」では、28 年間見守り活動を実施。気になる対象者には、安心情報キットを配布し、見守りの質の向上を図っている。 ・「ふれあいサロン」を 11 か所で開設し、地域の高齢者に通いの場を提供することで、地域住民の交流の機会創出に努めている。 ・「買物に困難を感じている」という地域の方の声を受け、福岡市内の移動販売協力事業者と連携し、校区内 13 か所で移動販売を実施。販売箇所では、住民同士の交流が生まれ、利用がない場合は安否確認をするなど見守り活動につながっている。
飯倉校区社会福祉協議会（福岡市早良区）	ＳＮＳを活用し、企業等と連携した見守り活動を実施	・業務で高齢者宅を訪問する企業等へ見守り活動の協力依頼を行い、民間企業と連携した見守り活動を実施。 ・協力企業から連絡を受けた際は、SNS を活用し、飯倉校区社会福祉協議会事務局から各町内へ連絡が行く体制を構築している。 ・年１回、ひとり暮らし高齢者等を対象にお弁当の配布を行い、安否確認や関係性の構築を図るとともに、お弁当に地域包括支援センターのチラシ等を同封し、相談先の

		周知を図っている。 ・年２回開催する高齢者地域支援会議に見守りボランティアが全員参加し、企業等との連携についてグループワークを行うなど、校区全体で高齢者支援に取り組む風土づくりを行っている。 ・買い物支援に関する高齢者のニーズ調査を実施し、特にニーズが高かった町内で、買い物支援イベントを開催するとともに、集会所を月１回カフェとして開放し、高齢者の交流や外出機会の創出、安否確認につなげている。
元岡校区社会福祉協議会（福岡市西区）	区役所と連携した「見守りマップ」、「個別避難計画」の策定で、見守り対象者の支援を強化	・区役所から助言を受けて、「見守りマップ」及び「個別避難計画」を策定。毎年更新し、町内ごとで最新情報の共有を図り、見守り対象者への支援につなげている。 ・元岡校区「ふれあいネットワーク推進協議会」では自治会や老人クラブ、民生委員、消防団のほか、ＰＴＡや子ども会育成連合会など、多岐にわたる団体を構成メンバーとすることで、将来の担い手づくりを意識した連携を実施している。 ・地域包括支援センターの協力のもと、認知症に関する研修会を実施。今後増えていくことが予想される認知症の方への見守りについての対応力向上に努めている。 ・校区にある日常生活支援ボランティアグループ「まごの手」と連携し、高齢者への見守りも兼ねて、庭木の剪定や草取りといった生活支援活動を実施している。
三筑校区社会福祉協議会（福岡市博多区）	災害時に備えた平常時の見守り体制の構築	・11町内全てでふれあいネットワークが実施され、民生委員を中心に、町内会やシニアクラブ等の各団体が横断的に協力する体制を構築し、月２回の見守り活動を実施している。 ・自治協、民生委員・児童委員など地域福祉関係者の協力を得て「見守りマップ」を作成。毎年更新し、活動員が情報を共有することで、効率的な見守り活動を実施している。 ・毎年９月開催の「高齢者ふれあい交流会」では、警察官による交通安全講習、特殊詐欺防止等の講話を行い、高齢者の方へ注意喚起や啓発を実施するとともに、災害時に備えた見守り体制の構築に資する研修会を開催し、地域の安心につながる取り組みを実施している。 ・年３回開催している「さんさんカフェ」では、地域住民の交流の場を提供することで、地域でお互いに顔が見える関係づくりを構築している。
中区福祉部（大野城市）	「向こう三軒両隣」を合言葉にした地域ネットワークの再構築を目的とした見守り活動	・中区を８班に分け、各班４～８名のボランティアが民生委員・児童委員からの情報を共有し、支援の必要性を確認しながら、「向こう三軒両隣」を合言葉に訪問活動を実施。不在の方には、「ぬくもり用紙」で安否確認を行っている。 ・訪問時の見守り対象者の状態は「ふれあいカード」で記録、管理し、効率的に活動できるよう工夫している。 ・社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携し、年１回の見守り研修会を開催し、活動員の資質の向上に努めている。

		・高齢者の閉じこもり防止のため、花見・クリスマス会などの季節行事を開催するとともに、「音楽サロン」や「足元気教室」などを定期的に実施することで、地域住民との交流、孤立防止を図っている。 ・地域包括支援センターと連携して、移動スーパーの受け入れを行い、地域の高齢者の生活を支える取り組みを行っている。
篠山りんどうの会 （久留米市）	季節に合わせた食事サービスによる見守り活動	・見守り対象者一人当たり月平均16回の見守りを行うなど精力的な見守り活動を実施し、地域の高齢者の安全安心に貢献している。 ・見守り時に合わせて、りんどうの会主催の集いの場へのお誘いや、地域行事への案内を行うことで、地域との交流の場への参加を促している。 ・毎月、りんどうの会の定例会や、校区社協と民児協との合同情報交換会を行うことで、見守りの網を細かくすると同時に、よりタイムリーな情報交換を意識して活動している。 ・見守りを兼ねた安否確認や近況を知る機会として、年５～６回、食事会の開催や配食を実施。食事会では、フレイル予防チェックや防災に関するＤＶＤの視聴などを通じて、高齢者の学びも促進している。 ・クリスマス会や餅つき大会など季節行事を積極的に取り入れ、地域の高齢者の交流の場の創出に取り組んでいる。